

《アルコール分解酵素遺伝子検査のタイプ分類》

検査結果は下記のA～Eの5タイプ分類されます

タイプ	アルコール脱水素酵素 ADH1B遺伝子	アルデヒド脱水素酵素 ALDH2遺伝子	説明
A	弱い *1/*1	強い *1/*1	一般の人の4%、アルコール依存症では27% 飲酒で赤くなる不快な反応がなく、たくさん飲むと酒が抜けずに翌朝も酒臭い。 アルコール依存症になりやすい体質。
B	強い *2/*2 *1/*2	強い *1/*1	一般の人の54%、アルコール依存症では60% 飲酒で赤くなるような不快な反応が弱く、アルコールを速く分解するので、飲めるタイプ。たくさん飲むと肝臓の負担が大きく、肝臓を壊したり、やせ型になりやすい。
C	弱い *1/*1	弱い *1/*2	一般の人の3%、アルコール依存症では4% 飲酒で赤くなる不快な反応がやや弱く、飲めるタイプと勘違いして飲んでいる人が多い。たくさん飲むとアセトアルデヒドの毒性で、大球性貧血が起こりやすく、食道がんの危険が非常に高いので飲み過ぎに注意。
D	強い *2/*2 *1/*2	弱い *1/*2	一般の人の33%、アルコール依存症では9% 飲酒で赤くなりもともとは酒に弱い。鍛えて酒飲みになる人もいるが、たくさん飲むとアセトアルデヒドの毒性で、大球性貧血が起こりやすく、食道がんの危険が高いので飲み過ぎに注意。
E	強い弱いの いずれでも	極めて弱い *2/*2	一般の人の7%、アルコール依存症では0% ごく少量の飲酒でもすぐに赤面し気持ち悪くなる、全くお酒が飲めない人。